

## 平成26年度「全国学力・学習状況調査」における

### 高見 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

##### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

##### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

# 高見 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

## 1. 教科に関する調査結果の概要

### ① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

#### ・本校の結果

国語A	全国平均正答率を上回っている。
国語B	全国平均正答率を上回っている。
算数A	全国平均正答率を上回っている。
算数B	全国平均正答率を上回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

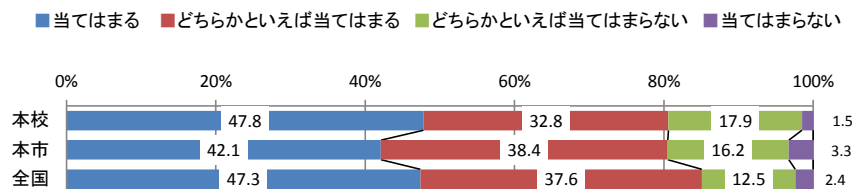
### ② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に全国平均正答率を上回っていた。</li> <li>・漢字やことわざについての理解はまだ十分でない面が見られ、いろいろな漢字やことわざに触れる機会を増やしていく必要がある。</li> </ul>
	よくできた問題	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	故事成語の意味と使い方についての問題は正答率が全国平均を下回った。
国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に全国平均正答率を上回っていた。応用問題に対して、苦手意識をもたず、粘り強く取り組むことができる。</li> <li>・国語Aよりも国語Bの方が全国平均よりも正答率の割合が高かった。このことから、国語A(基礎知識)の学力を向上させていく必要がある。</li> </ul>
	よくできた問題	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く問題の正答率が高い。
	努力が必要な問題	話合いの場面における質問者の質問の意図を捉える問題の正答率が全国平均を下回った。
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの問題で全国平均正答率を上回っていたが、国語A・B、算数Bと比べると全国平均正答率を下回る問題も多い。</li> <li>・小数や分数の計算問題の間違いが多く、基礎的な計算力を十分に付ける必要があった。</li> </ul>
	よくできた問題	作図に用いられている図形の約束や性質の理解を問う問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	小数同士の計算や分数の計算に関する問題の正答率が全国平均を下回った。
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に全国平均正答率を上回っていた。</li> <li>・数量や図形についての知識・理解が高い。</li> <li>・無解答率の高い問題もあった。</li> </ul>
	よくできた問題	最大値に着目して、棒グラフの棒を省略して表す理由を説明する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	示された情報を整理して基準量を見付け、その1.5倍の長さを求める問題は、正答率が全国平均を下回った。

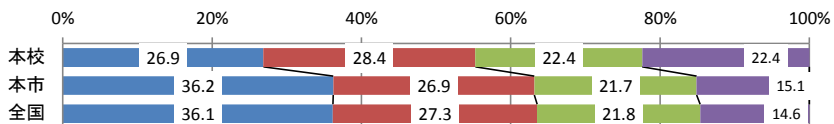
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

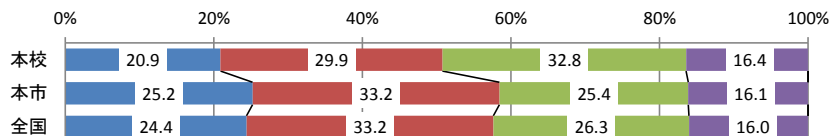
43
授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていると思いますか



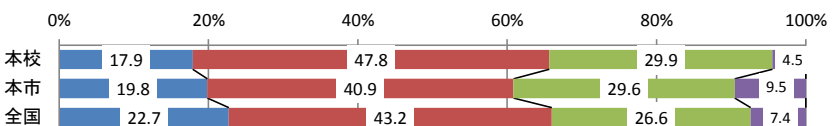
46
400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか



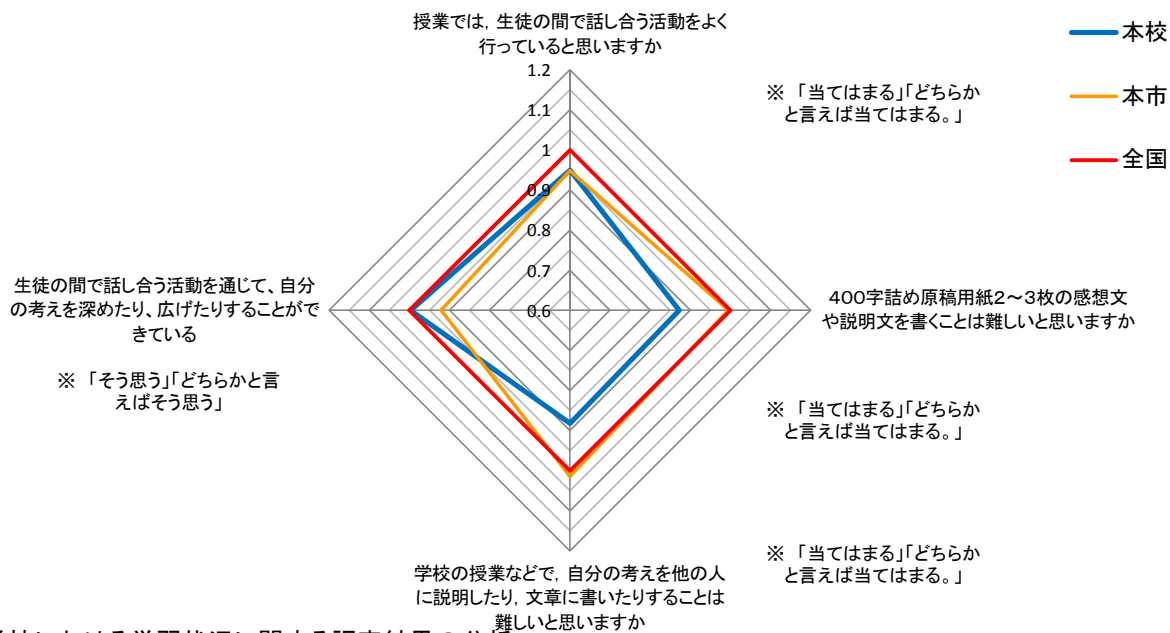
47
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



48
生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

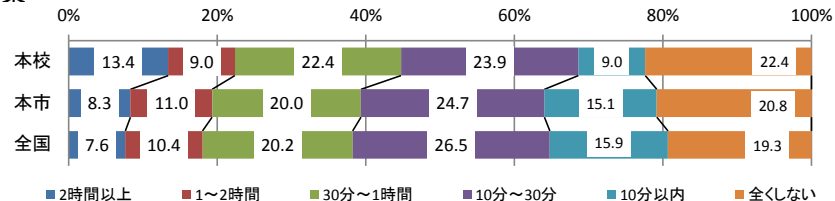
・子ども同士で話し合う中で、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると感じている子どもは、全国と同等である。今後も各教科・領域の授業の中で、できるだけ子ども同士で話し合う「少人数での交流活動」を多く設けていくことで、考えの深まりや広がりをねらっていく必要がある。

・自分の考えを文章に書くことに抵抗感をもっている児童が多いと考えられる。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりして、書く活動を授業に取り入れる必要がある。

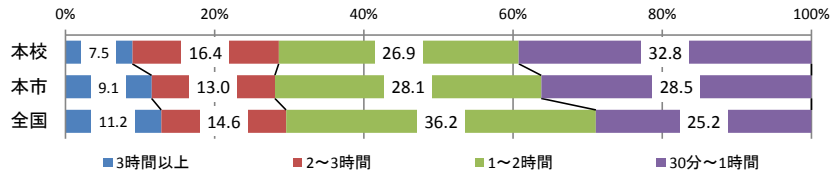
## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果

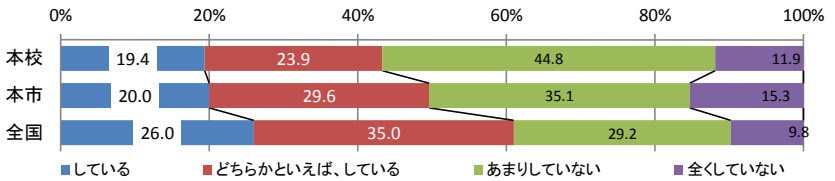
17  
家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)



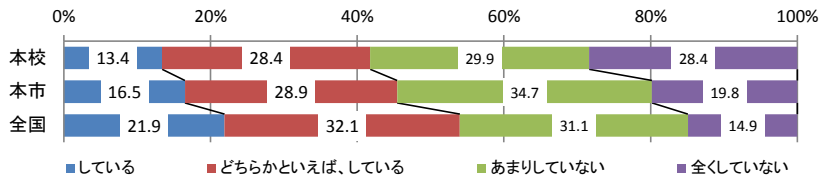
14  
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



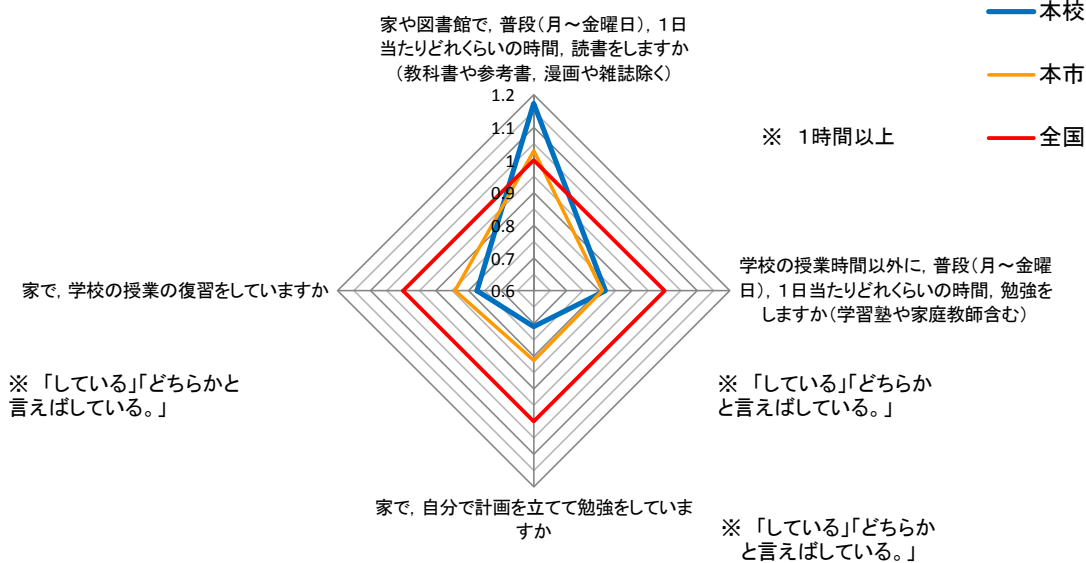
21  
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



24  
家で、学校の授業の復習をしていますか



### ② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

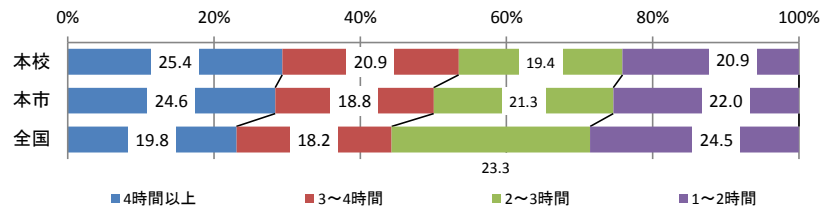


### ③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

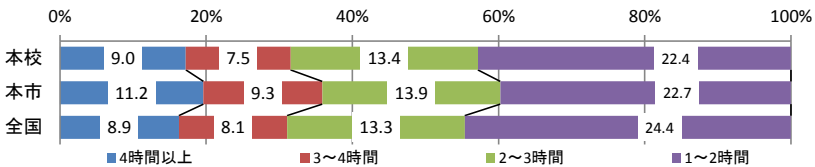
・学校外での読書量に関しては、全国と比べてもかなり充実した結果が得られている。  
 ・自分で計画して勉強している子どもの割合が低く、家庭学習の絶対量が少ない。全校で時間のめやすを示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

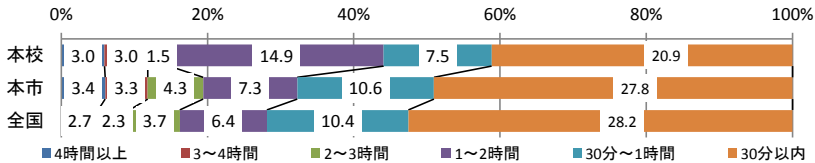
11  
 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



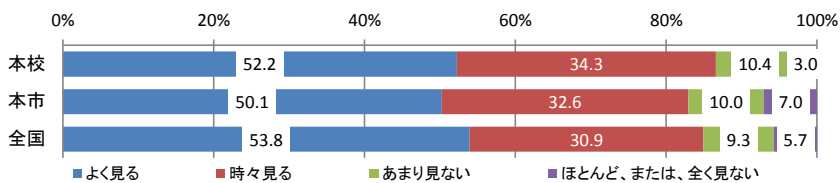
12  
 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか



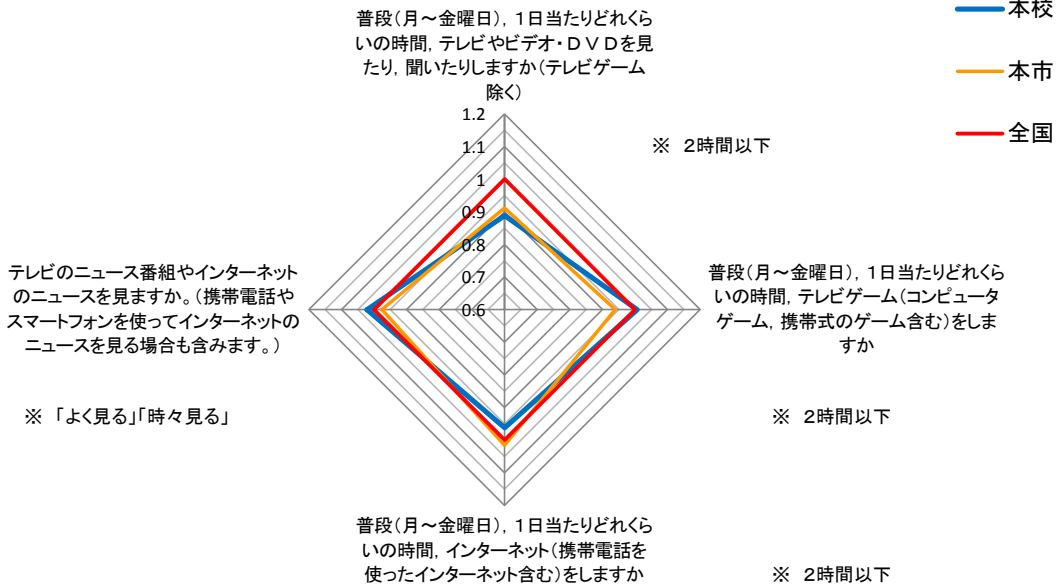
13  
 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネット(携帯電話を使ったインターネット含む)をしますか



33  
 テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含みます。)



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・テレビ等の接触時間は、全国や市に比べ多い傾向にあるが、テレビゲーム等の時間は、ほぼ全国平均と同じである。  
 ・上の棒グラフを見ると、インターネットの使用時間は全国よりやや多い傾向がある。現在、子どものネット依存などの諸問題が取り沙汰されていることを踏まえ、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の利用について、学校と家庭で連携して指導していく必要がある。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
  - ・朝自習の時間を使って、漢字練習や基本的な計算練習を行う時間を設定する。
  - その際、黒板にポイントやつまずきやすい所などを示すとともに、説明を行い、確実な理解を図る。
- ◎ 少人数学習や個別指導の充実を図る。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
  - ・アシストシートやWEB問題を導入で使い、基礎基本の徹底を図る。
- 冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用
- ノート指導の充実・「書く」ことを習慣化
  - ・ノート指導の充実のため、学習の最後、3分間を「振り返りタイム」として、振り返りを書くことを習慣化していく。
  - また、よい振り返りが書かれている場合は、全員に紹介し、文章の質的向上も図っていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
  - ・自主学習ノートの活用
  - ・月始めに担任が「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用具合を確認し、家庭学習の質・量について賞賛していく。
  - ・家庭学習マイスター賞への応募を奨励する。
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
  - ・家庭教育学級や学年懇談会等で、結果と取組を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。
- 高見中学校と連携し家庭学習や生活のきまりを作成し、小学校・中学校における家庭学習の共通事項を設ける。